

第一三共の現況と成長戦略

第一三共株式会社

専務執行役員 CFO
小川 晃司

2025年11月26日

将来の見通しに関する注意事項

本書において当社が開示する経営戦略・計画、業績予想、将来の予測や方針に関する情報、研究開発に関する情報等につきましては、全て将来を見込んだ見解です。これらの情報は、開示時点で当社が入手している情報に基づく一定の前提・仮定及び将来の予測等を基礎に当社が判断したものであり、これらには様々なリスク及び不確実性が内在しております。従いまして、実際の当社の業績は、当社の見解や開示内容から大きくかい離する可能性があることをご留意願います。また、本書において当初設定した目標は、全て実現することを保証しているものではありません。なお、実際の結果等にかかわらず、当社は本書の日付以降において、本書に記述された内容を随時更新する義務を負うものではなく、かかる方針も有していません。

本書において当社が開示する開発中の化合物は治験薬であり、開発中の適応症治療薬としてFDA等の規制当局によって承認されてはおりません。これらの化合物は、対象地域においてまだ有効性と安全性が確立されておらず、開発中の適応症で市販されることを保証するものではありません。

当社は、本書に記載された内容について合理的な注意を払うよう努めておりますが、記載された情報の内容の正確性、適切性、網羅性、実現可能性等について、当社は何ら保証するものではありません。また、本書に記載されている当社グループ以外の企業・団体その他に係る情報は、公開情報等を用いて作成ないし記載したものであり、かかる情報の正確性、適切性、網羅性、実現可能性等について当社は独自の検証を行っておらず、また、これを何ら保証するものではありません。

本書に記載の情報は、今後予告なく変更されることがあります。従いまして、本書又は本書に記載の情報の利用については、他の方法により入手した情報とも照合し、利用者の判断においてご利用ください。

本書は、米国又は日本国内外を問わず、いかなる証券についての取得申込みの勧誘又は販売の申込みではありません。

本書は投資家判断の参考となる情報の公開のみを目的としており、投資に関する最終決定はご自身の責任においてご判断ください。

当社は、本書に記載された情報の誤り等によって生じた損害について一切責任を負うものではありません。

1. 医薬品の分類と市場

2. 第一三共の現況

3. 第一三共の成長戦略

4. 株主還元方針



1. 医薬品の分類と市場

2. 第一三共の現況

3. 第一三共の成長戦略

4. 株主還元方針



医薬品

医療用医薬品

- 医師の処方箋が必要

金額ベースの割合*1
約 9 : 1

OTC医薬品等

- 一般用医薬品や配置用家庭薬など
- 薬局やドラッグストアなどで購入可能

新薬

(イノベティブ医薬品)

満たされていない医療ニーズの充足

- 独占販売期間が認められている

金額ベースの割合*2
約 8 : 2

後発医薬品

(ジェネリック医薬品)

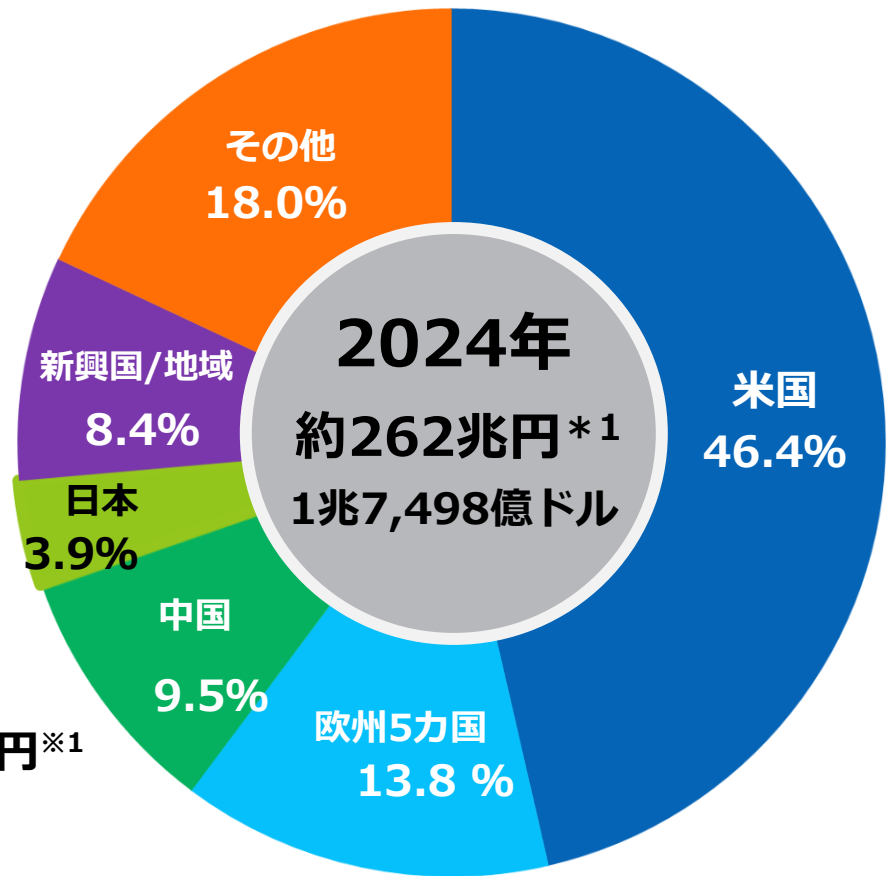
医療費の抑制

- 独占販売期間が過ぎた後に発売

*1：参照：厚生労働省「薬事工業生産動態統計年報」第1表 医薬品生産金額の推移

*2：厚生労働省「令和5年度薬価基準改定の概要」をもとに当社にて算出

地域別シェア






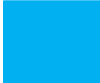


約10.2兆円*1

年平均成長率予測値
2025-2029年

グローバル	5～8%
米国	6～9%
欧州5カ国	6.2%*2
中国	2.8%
日本	1.2%

*1 1ドル=150円換算 *2 2029年の市場規模予測 (\$327Bn) 及び2024年の市場規模 (\$242Bn) をもとに算出
欧州5カ国：ドイツ、フランス、英国、イタリア、スペイン
新興国/地域：ブラジル、インド、アルゼンチン、バングラデシュ、コロンビア、エジプト、インドネシア、メキシコ、パキスタン、フィリピン、タイ、ベトナム
出典：IQVIA INSTITUTE, The Global Use of Medicines Outlook through 2029 をもとに当社作成 無断転載禁止

治療領域別の市場規模予測と成長率予測

	治療領域 ^{*1}	2029年 市場規模予測 ^{*2}		年平均成長率予測 (2025-2029年)
1	がん領域		66.2兆円	11～14%
2	免疫疾患領域		38.9兆円	6～9%
3	糖尿病領域		35.1兆円	4～7%
4	心臓血管領域		17.9兆円	2～5%
5	中枢神経領域		16.4兆円	6～9%
6	呼吸器領域		16.2兆円	3～6%

*1：弊社和訳。原文表記は順位1から順に、Oncology, immunology, diabetes, cardiovascular, CNS (central nervous system), respiratory

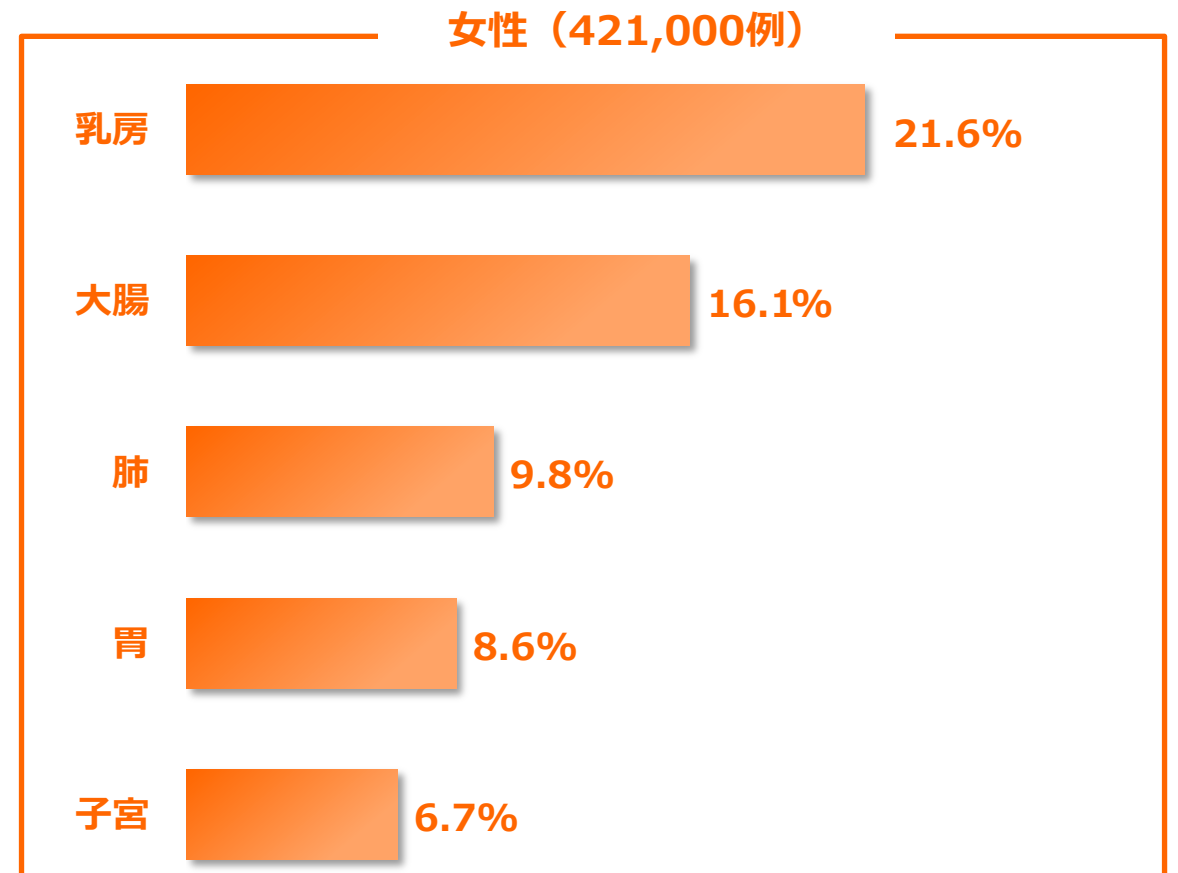
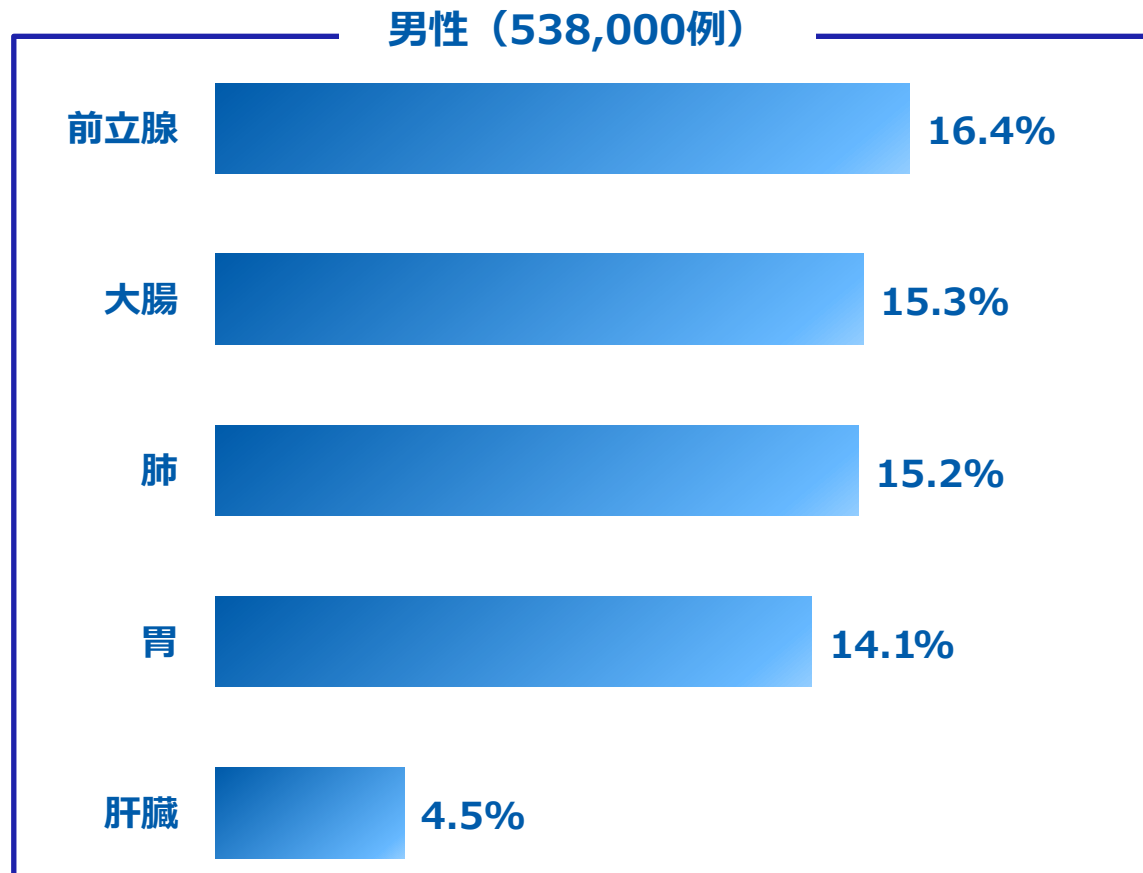
*2：1ドル=150円換算

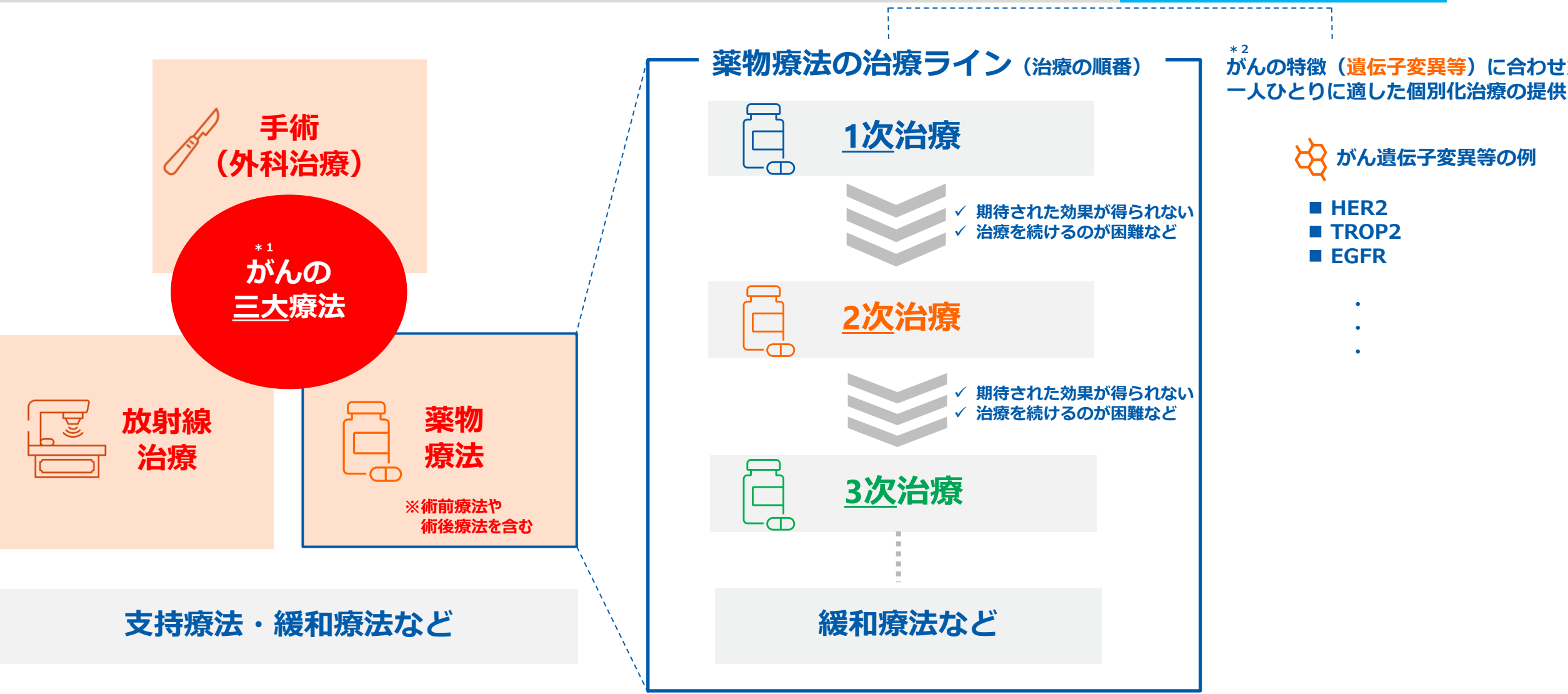
出 典：IQVIA INSTITUTE, The Global Use of Medicines Outlook through 2029をもとに当社作成 無断転載禁止

日本におけるがん罹患数

- ◆ 日本人が一生のうちにがんと診断される確率は2人に1人*1（男性：63.3% / 女性：50.8%）
- ◆ 効果的な治療法や画期的な新薬への社会の期待が大きい

日本における部位別予測がん罹患数*2（2024年：男女別上位5部位）





1. 医薬品の分類と市場

2. 第一三共の現況

3. 第一三共の成長戦略

4. 株主還元方針



会社概要

コーポレートスローガン

イノベーションに情熱を。ひとに思いやりを。
Passion for Innovation. Compassion for Patients.®

設立



2005年9月

三共と第一製薬の経営統合により設立

事業内容



**医薬品の研究開発
製造、販売等**

連結社員数



19,765名

活動展開国・地域



32カ国・地域

グローバル主要製品



抗悪性腫瘍剤

エンハーツ®

抗凝固剤

リクシアナ®

主要研究開発拠点



**品川
研究開発
センター**

第一三共のパーパスと最大の強み

企 業
理 念

パーパス（存在意義）

世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献する

ミッション

革新的医薬品を継続的に創出し、
多様な医療ニーズに応える医薬品を提供する

最大の強み

サイエンス&テクノロジー

長年引き継がれてきた強力な研究開発のDNA

1899年



消化酵素剤
タカヂアスターゼ®

1989年



高コレステロール血症治療剤
メバロチン®

1993年



広範囲経口抗菌製剤
クラビット®

2002年



高血圧治療剤
オルメテック®

2010年



抗インフルエンザウイルス薬
イナビル®

2011年



抗凝固剤
リクシアナ®

2020年



抗悪性腫瘍剤
エンハーツ®

2023年



COVID-19ワクチン
ダイチロナ®

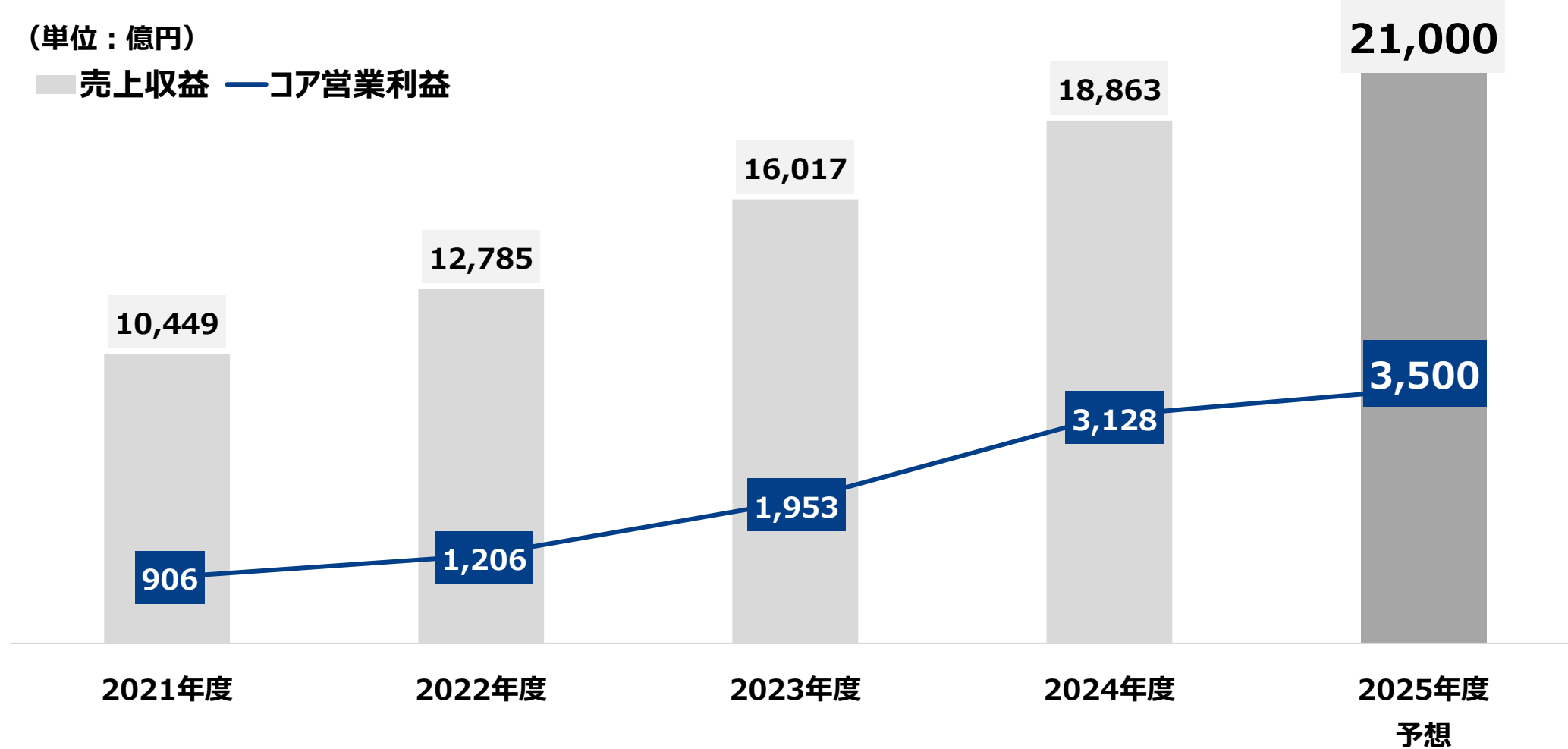
2024年



抗悪性腫瘍剤
ダトロウェイ®

売上収益・コア営業利益の推移

◆ 第5期中計期間中は売上収益、コア営業利益^{*}ともに順調に推移

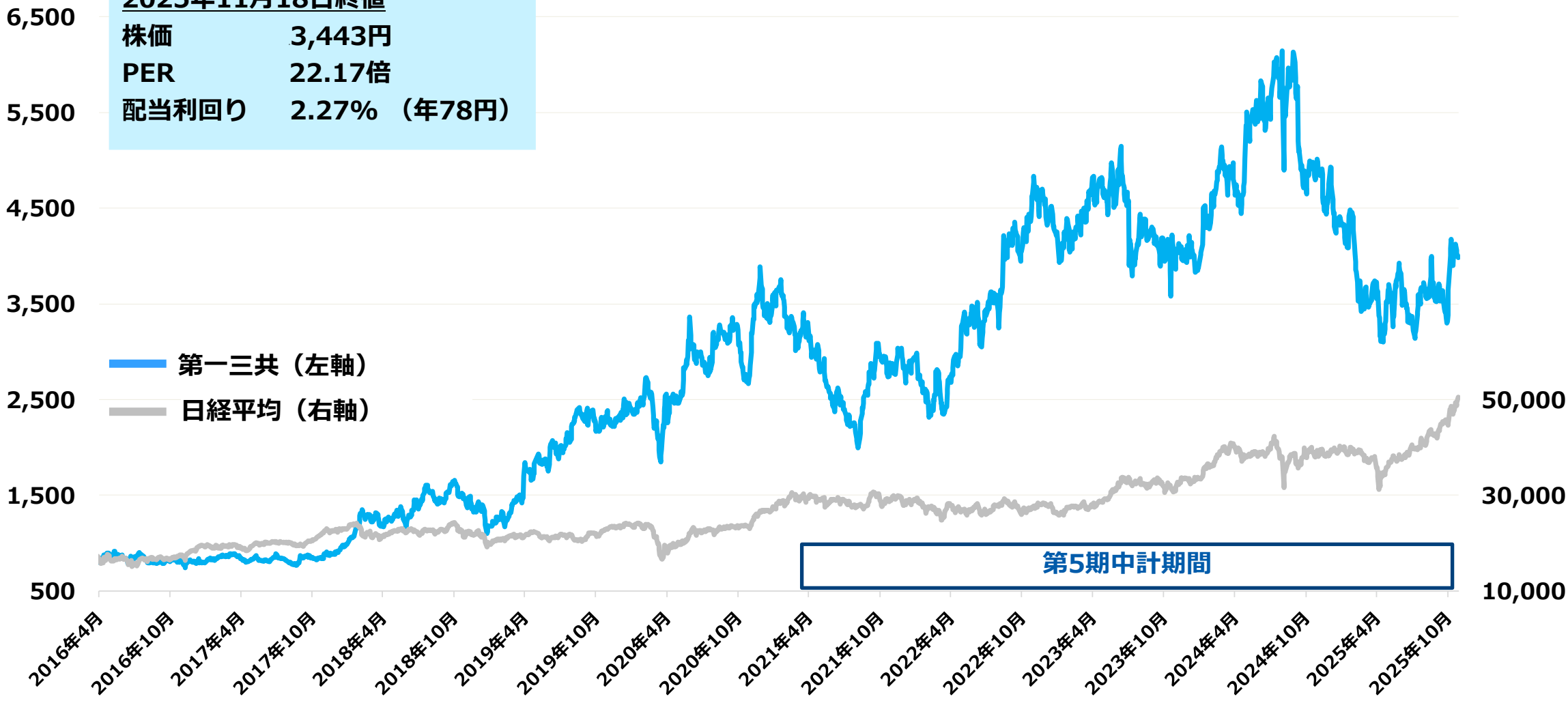


^{*} 当社は、経常的な収益性を示す指標として、営業利益から一過性の収益・費用を除外したコア営業利益を開示しています。一過性の収益・費用には、固定資産売却損益、事業再編に伴う損益（開発品や上市製品の売却損益を除く）、有形固定資産、無形資産、のれんに係る減損損失、損害賠償や和解等に伴う損益の他、非経常的かつ多額の損益が含まれます。本表では売上原価、販売費・一般管理費、研究開発費について、一過性の収益・費用を除く実績を示しています。営業利益からコア営業利益への調整表は、決算補足資料に記載しています。

株価の推移

(単位：円)

2025年11月18日終値			
株価	3,443円		
PER	22.17倍		
配当利回り	2.27%	(年78円)	



1. 医薬品の分類と市場

2. 第一三共の現況

3. 第一三共の成長戦略

4. 株主還元方針



- ◆ 2025年度目標「**がん**に強みを持つ先進的グローバル創薬企業」を達成し、2030年ビジョン実現に向けた成長ステージに移行するための計画







2030年
ビジョン

サステナブルな社会の
発展に貢献する
先進的グローバル
ヘルスケアカンパニー

第5期中期経営計画：2025年度計数目標と4つの戦略の柱

2025年度計数目標

		達成見込み (2025年4月現在)	
◆ 売上収益	1兆6,000億円	2兆円	
◆ がん領域売上収益	6,000億円以上	9,000億円	
◆ 研究開発費控除前コア営業利益率	40%	40%	
◆ ROE	16%以上	16%以上	
◆ DOE*1	8%以上	8.5%以上	
為替換算レート的前提： 1USD=105円、1EUR=120円		1USD=140円、1EUR=160円	

4つの戦略の柱

3ADC*2
最大化の実現

既存事業・製品の
利益成長

更なる成長の柱の
見極めと構築

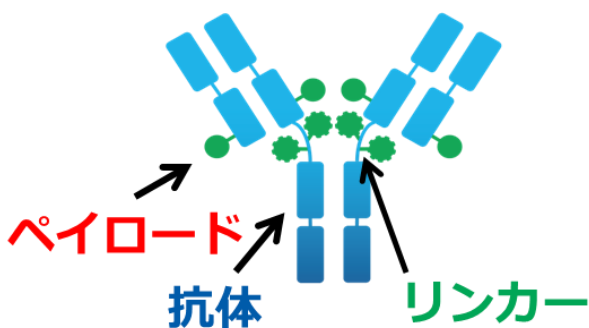
ステークホルダー
との価値共創

*1 DOE：株主資本配当率 = 配当総額 ÷ 株主資本（親会社の所有者に帰属する持分） *2 3ADC：エンハーツ®、ダトロウェイ®、HER3-DXd

抗体薬物複合体（ADC）



当社独自のADC技術（DXd ADC技術）の特徴



リンカー

特徴 1 : 抗体 1 つあたり最大8個のペイロードを搭載可能

特徴 2 : 血液中での高い安定性

特徴 3 : がん細胞に多く発現する酵素で選択的に切断

ペイロード

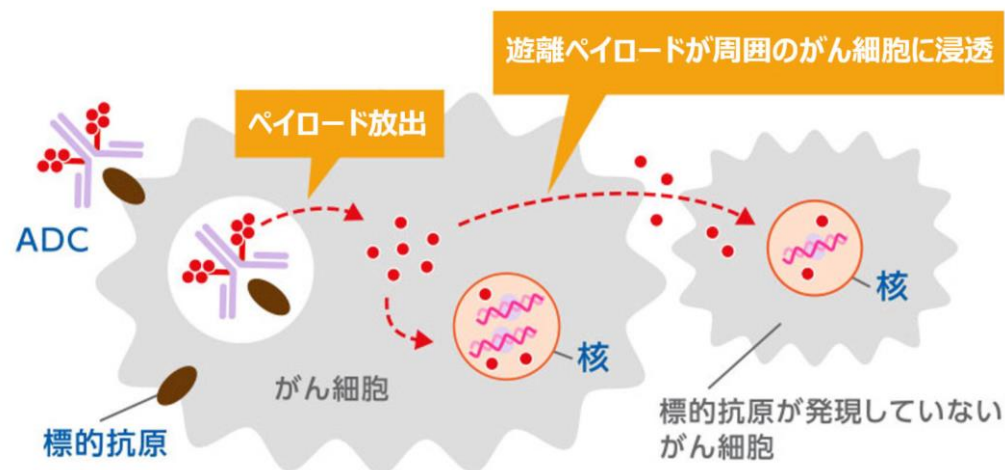
特徴 4 : 新規ペイロード（DXd）

特徴 5 : 強力な活性

特徴 6 : バイスタンダー抗腫瘍効果

特徴 7 : 血液中からの速やかな代謝

がん細胞内で放出されたペイロードが周りのがん細胞にも作用する効果。
本効果により、標的となる抗原が発現していないがん細胞が多く混在した腫瘍に対しても有効性が期待される



外部からのDXd ADC技術の評価（米国における画期的治療薬指定*）

◆ 2019年度以降、米国において合計 **13** 個の **画期的治療薬指定** を獲得



年度	適応症
2019年4月	HER2陽性乳がん3次治療
2020年4月	HER2遺伝子変異非小細胞肺癌2次治療
2020年4月	HER2陽性胃がん3次治療
2021年9月	HER2陽性乳がん2次治療
2022年4月	HER2低発現乳がん（化学療法既治療）
2023年9月	HER2陽性大腸がん3次治療以降
2023年9月	HER2陽性固形がん2次治療以降
2024年8月	HR陽性かつHER2低発現/超低発現乳がん（化学療法未治療）
2025年7月	HER陽性乳がん1次治療



年度	適応症
2024年12月	EGFR標的療法を含む前治療歴のあるEGFR変異非小細胞肺癌

I-DXd

年度	適応症
2025年8月	進展性小細胞肺癌

R-DXd

年度	適応症
2025年9月	プラチナ製剤抵抗性卵巣がん等

HER3-DXd

年度	適応症
2021年12月	EGFR変異非小細胞肺癌3次治療

* 米国画期的治療薬指定：重篤な疾患を対象に、既存の治療薬よりも高い治療効果を示す可能性のある薬剤の開発と審査を促進し、患者さんにより早く新薬を届けるために定められた制度

外部からのDXd ADC技術の評価（米国ガリアン賞）



- ◆ 2024年11月、当社独自のDXd ADC技術を用いたエンハーツ®が、ベストバイオテクノロジー製品として、製薬分野におけるノーベル賞とも言われる米国ガリアン賞を受賞



ENHERTU®
Daiichi Sankyo
& AstraZeneca

アストラゼネカ・米国メルクとの戦略的提携

◆ 革新的医薬品をより早く、より多くの患者さんにお届けすることを目的にアストラゼネカや米国メルクとの共同開発・共同販促に関する戦略的提携を締結

提携先	締結時期	対象製品	受領対価
 <p>アストラゼネカ (本社：英国ケンブリッジ)</p>	<p>2019年3月 2020年7月</p>	<p>エンハーツ® ダトロウェイ®</p> 	<p>総額 最大 1兆 4,190億円* 1, 2</p>

提携先	締結時期	対象製品	受領対価
 <p>Merck & Co., Inc., Rahway, NJ, USA (米国メルク)</p>	<p>2023年10月</p>	<p>HER3-DXd、 I-DXd、R-DXd</p> 	<p>総額 最大 3兆 3,000億円* 1, 3</p>

* 1 契約時一時金、開発・販売マイルストーン等の総額
 * 2 契約締結時の為替レート水準（1ドル=110円）での換算円貨
 * 3 契約締結時の為替レート水準（1ドル=150円）での換算円貨

DXd ADC技術を用いたHER2*¹抗原を標的とするADC（抗HER2 ADC）



◆ 取得適応症



乳がん

- HER2陽性 乳がん 2次治療以降
- HER2低発現 乳がん（化学療法既治療）
- HR*²陽性かつHER2低発現/超低発現乳がん（化学療法未治療）



胃がん

- HER2陽性 胃がん 2次治療以降



肺がん

- HER2遺伝子変異 非小細胞肺がん 2次治療以降



その他固形がん

- HER2陽性 固形がん 2次治療以降

◆ 2024年度 売上収益（グローバル）：**6,514**億円

◆ 発売国：世界**69**カ国以上（2025年3月現在）※2024年度新規展開17カ国

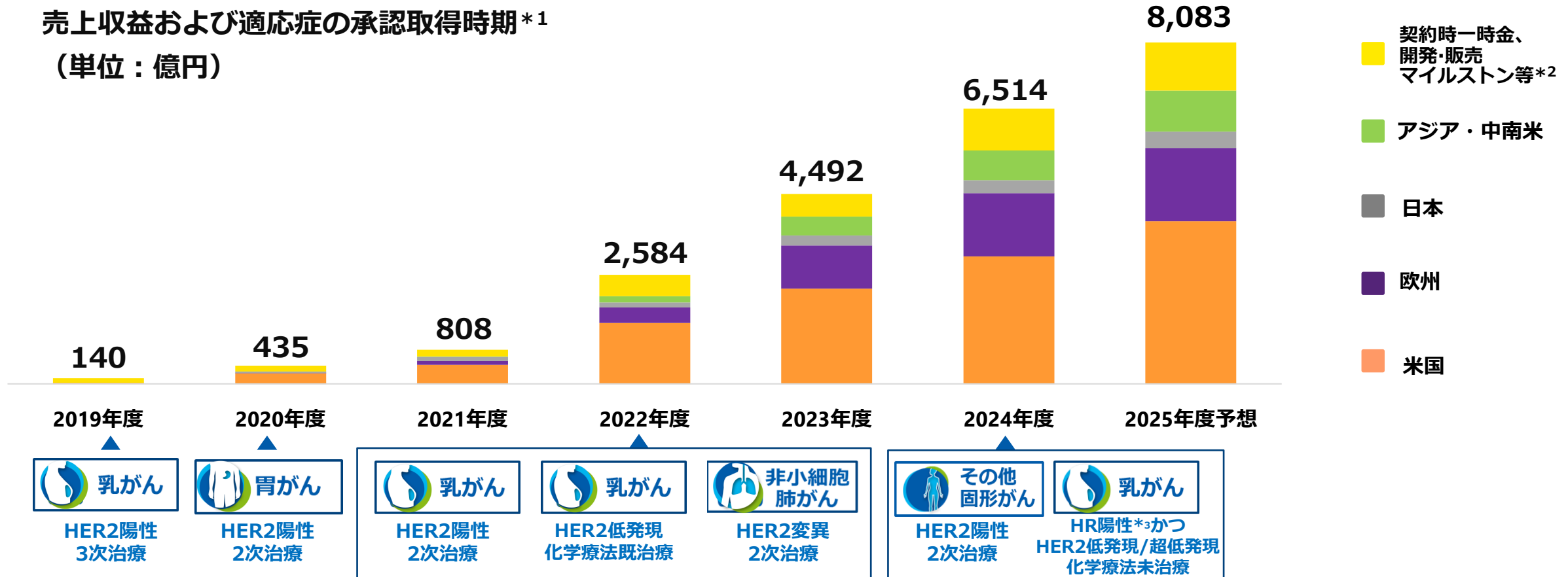
*1 HER2（ヒト上皮成長因子受容体2型）細胞の成長や増殖に関わるタンパク質の一種

*2 HR：ホルモン受容体

エンハーツ®：発売以来の売上収益の推移

- ◆ 着実な市場浸透（シェアの伸長）、販売国・地域と適応の拡大（治療対象となる患者数の増加）により売上が順調に伸長
- ◆ 2025年度の売上収益は対前期1,568億円増加の8,083億円を見込む

売上収益および適応症の承認取得時期*1
（単位：億円）



*1 適応症の承認取得時期：米国における承認取得時期、*2 当該年度の収益認識額、*3 HR：ホルモン受容体

エンハーツ®：適応拡大による成長の例

(乳がんを対象とした、米国における適応拡大)

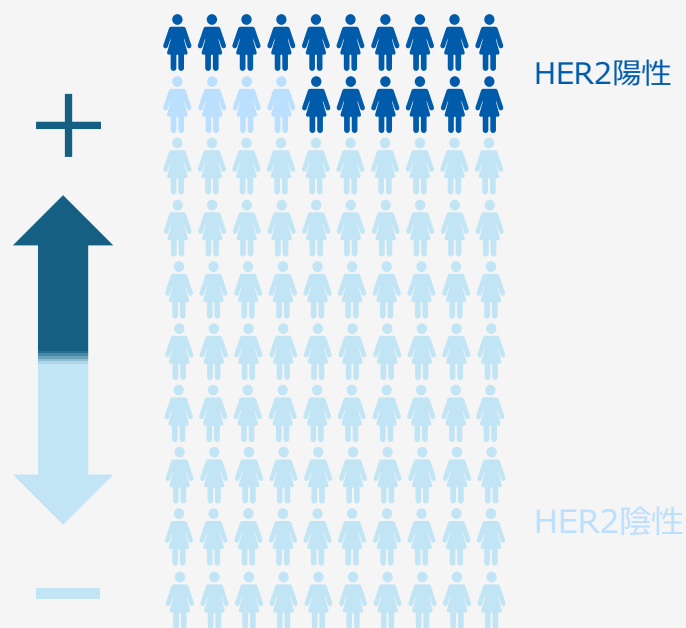
◆ 適応拡大を通じて、より多くの患者さんに貢献

2020年1月

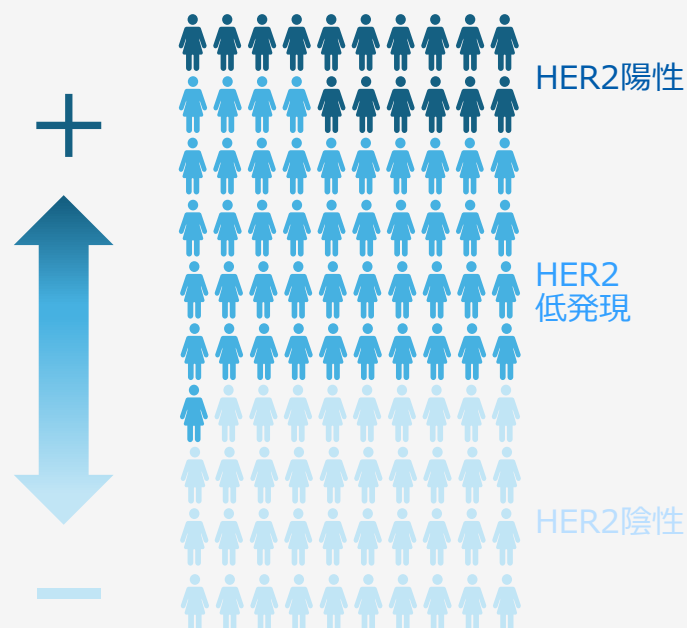
2022年8月

2025年1月

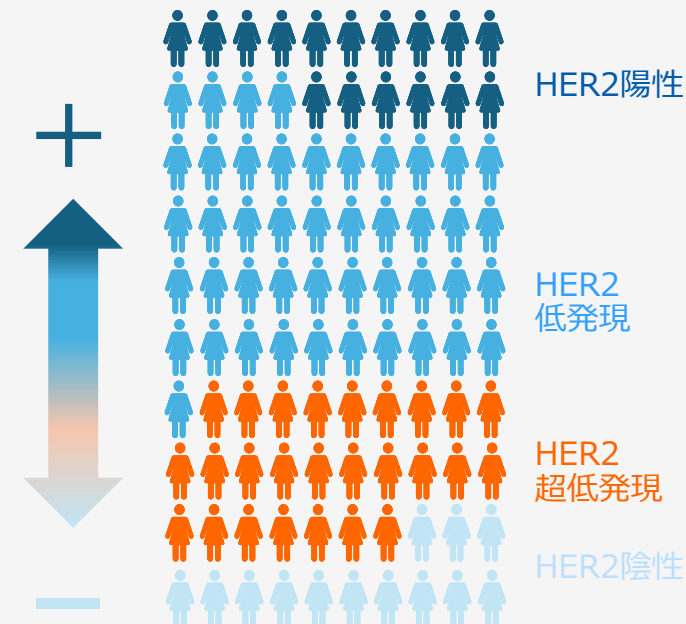
HER2陽性 乳がん



HER2低発現 乳がん



HER2超低発現 乳がん



抗HER2治療薬の対象患者

エンハーツ®：2025年度の主な適応拡大



◆ さらなる適応拡大を目指して、複数の臨床試験が進行中

拡大を目指す適応症

進行状況



HER2陽性乳がん1次治療

- ・ 従来の標準治療と比較して良好な結果を獲得
- ・ 2025年6月：国際学会でデータ発表
- ・ 2025年7月：米国FDAより**画期的治療薬指定**を獲得
- ・ 米国の審査終了予定日：2026年1月23日



HER2陽性早期乳がん術前療法

- ・ 従来の標準治療と比較して良好な結果を獲得
- ・ 2025年10月：国際学会でデータ発表
- ・ 米国の審査終了予定日：2026年5月18日

DXd ADC技術を用いて、エンハーツ®に続いて承認された二番目の製品 TROP2抗原を標的とするADC（抗TROP2 ADC）



◆ 取得適応症



乳がん

- ホルモン受容体陽性かつHER2低発現または陰性乳がん 2次治療以降



肺がん

- EGFR標的療法を含む前治療歴のあるEGFR変異 非小細胞肺がん

◆ 製品売上実績

- 2024年度売上収益：**78**億円
- 順調な売上収益の立ち上がり

◆ 発売国：日本、米国、欧州

ダトロウェイ®：発売以来の売上収益の推移

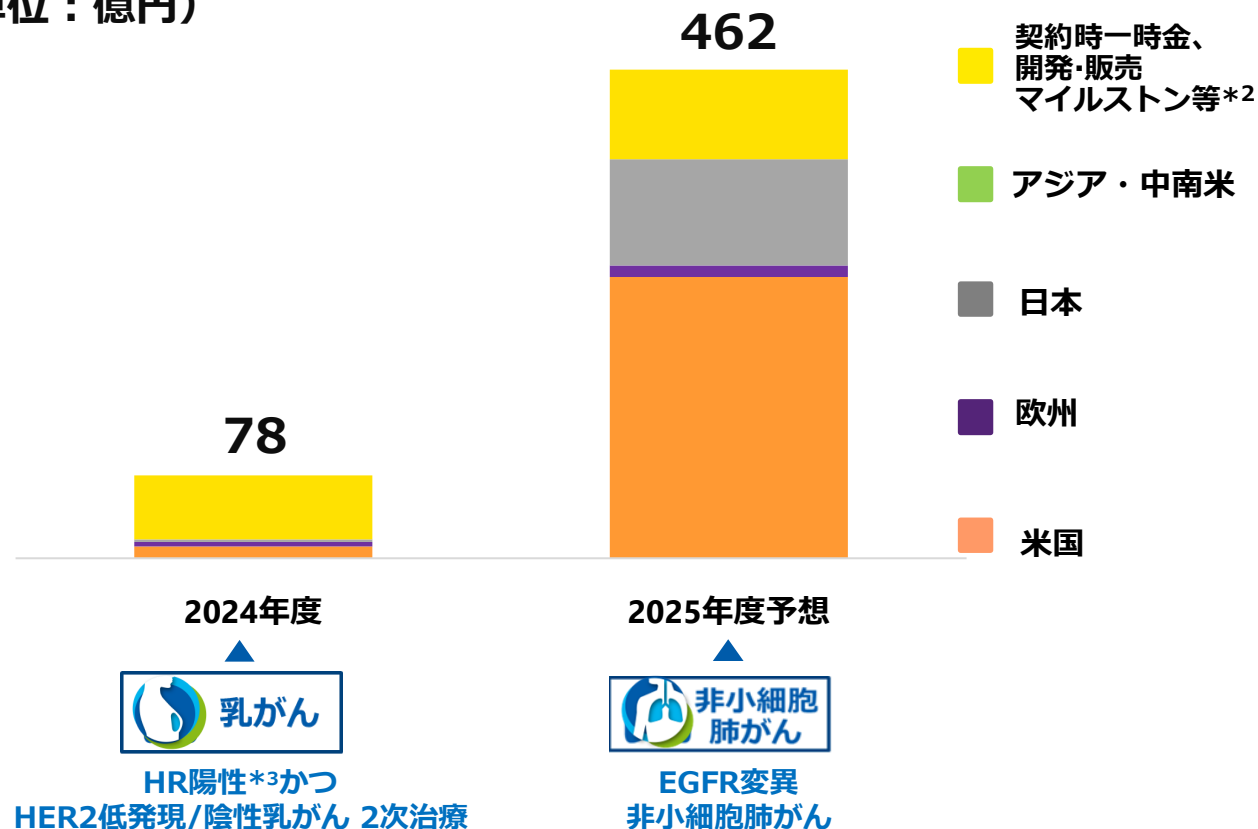
DATROWAY
datopotamab deruxtecan



- ◆ エンハーツ®同様、販売国・地域と適応の拡大により売上が順調に伸長
- ◆ 2025年度の売上収益は対前期384億円増加の462億円を見込む

売上収益および適応症の承認取得時期*1

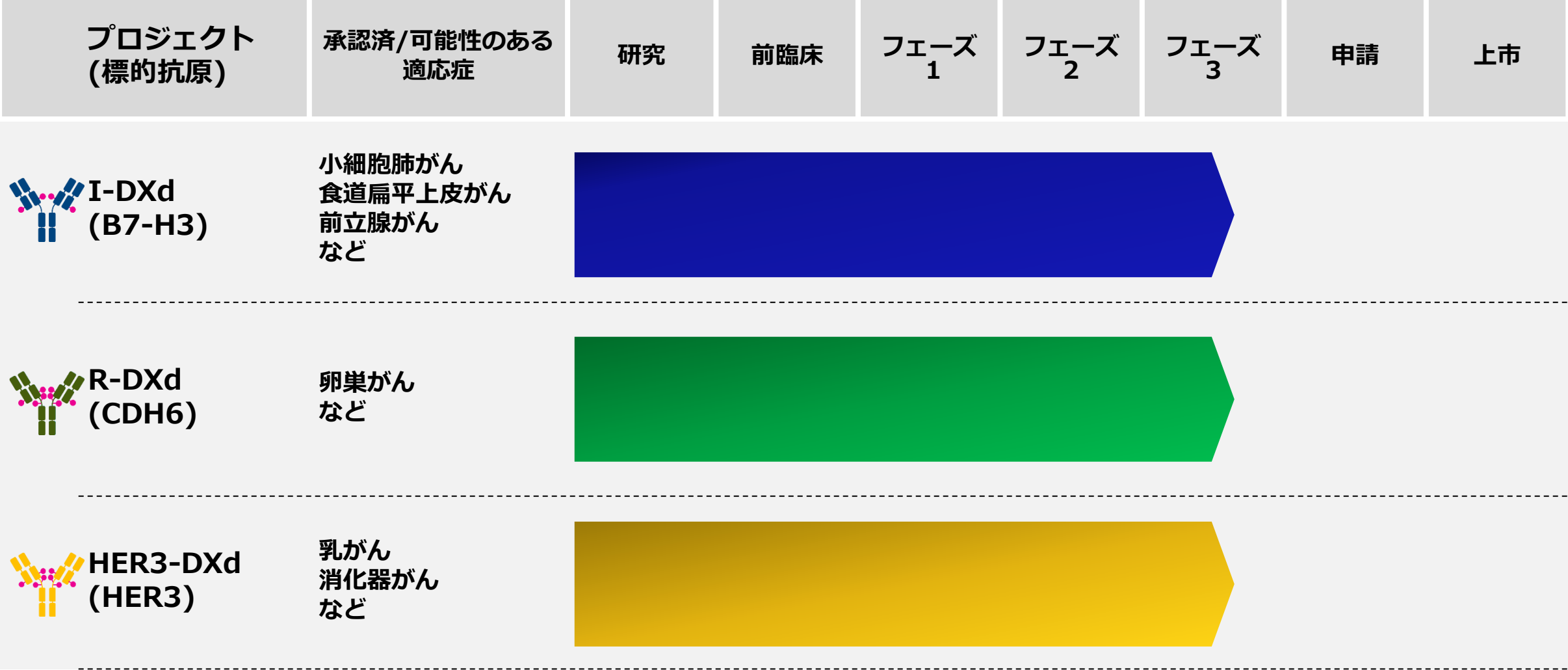
(単位：億円)



拡大を目指す 主な適応症	進行状況
乳がん	<ul style="list-style-type: none">トリプルネガティブ乳がんにて、従来の標準治療と比較して良好な結果を獲得
肺がん	<ul style="list-style-type: none">より対象患者の多い早期段階の臨床試験を複数進行中

*1 適応症の承認取得時期：米国における承認取得時期、*2 当該年度の収益認識額、*3 HR：ホルモン受容体

I-DXd、R-DXd、HER3-DXd：研究開発の状況



 タイムラインは各プロジェクトで最も進んでいるステージを示している

5DXd ADCs : 2030年までの成長計画

◆ **2030**年までに**5**つのADCを上市し、**30**以上の適応症で**70**万人近い患者に貢献できる可能性*1

5つのADCの承認取得

 **ENHERTU**[®]
trastuzumab deruxtecan

 **DATROWAY**[®]
datopotamab deruxtecan

 **I-DXd**

 **R-DXd**

 **HER3-DXd**

30以上の適応症の承認*2



✓ 早期ステージ乳がん
✓ 転移性乳がん



✓ 胃がん



✓ 非小細胞肺がん
✓ 小細胞肺がん



✓ 卵巣がん



✓ その他

1. 医薬品の分類と市場

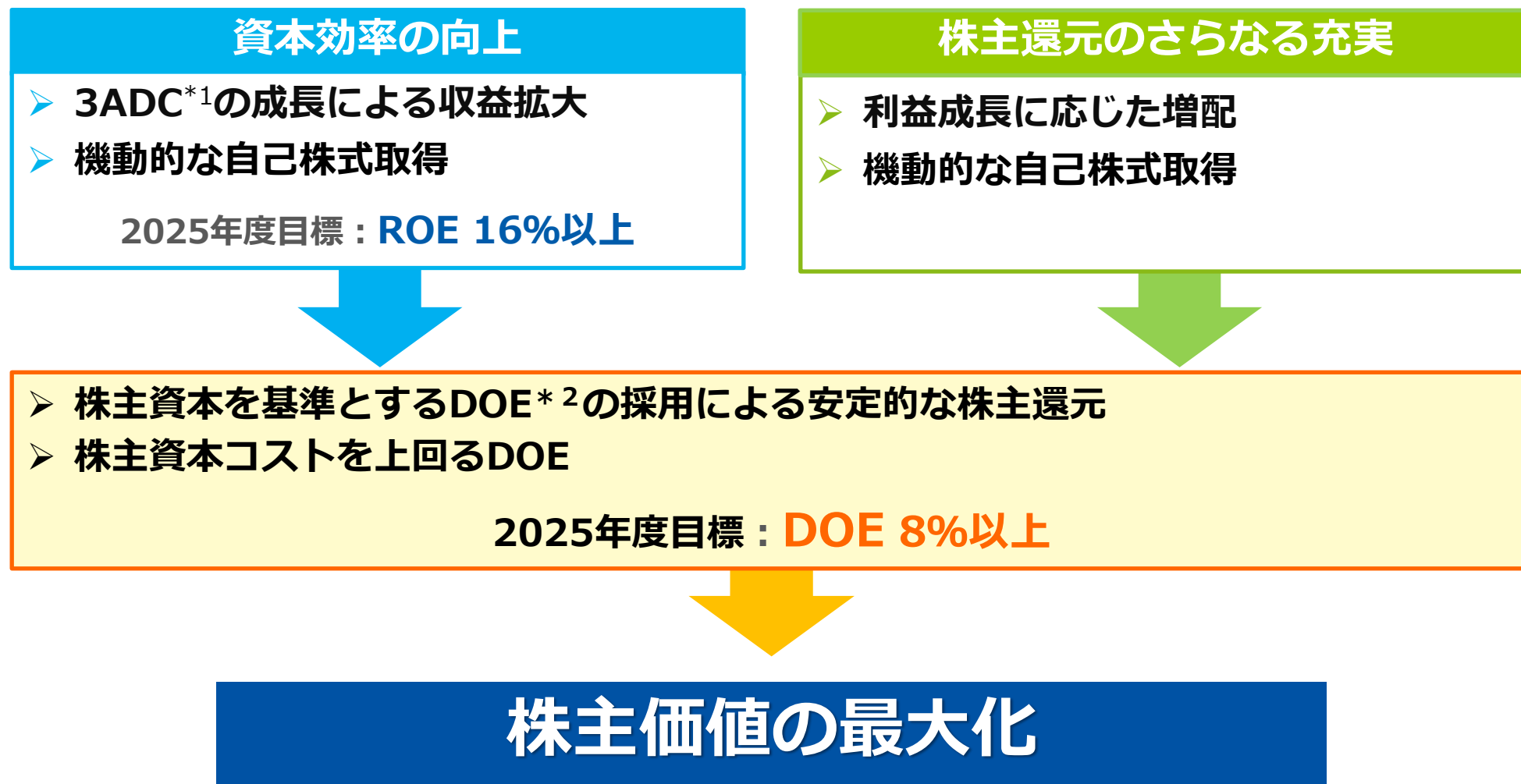
2. 第一三共の現況

3. 第一三共の成長戦略

4. 株主還元方針



第5期中計期間中の株主還元方針

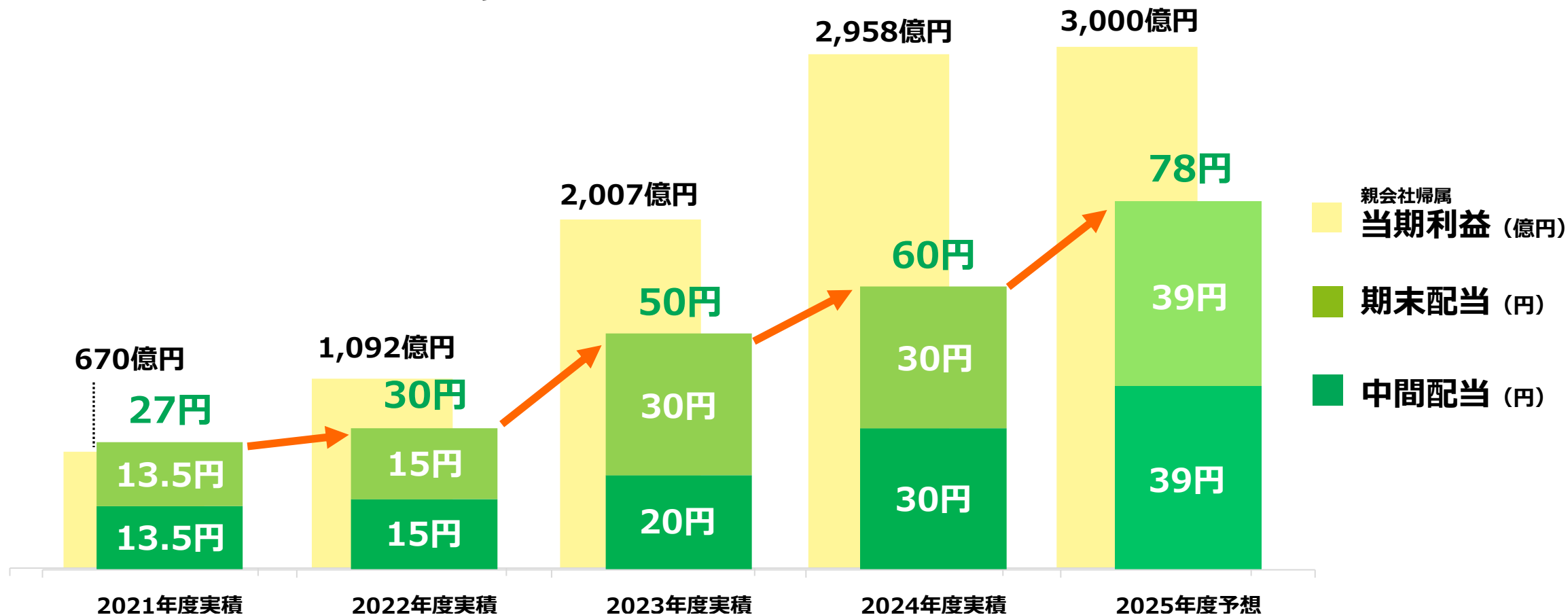


*1 3ADCs : エンハーツ®、ダトロウェイ®、HER3-DXd *2 DOE : 株主資本配当率 = 配当総額 ÷ 株主資本 (親会社の所有者に帰属する持分)

利益成長に応じた増配

◆ エンハーツ®の成長により、3年連続（2022～2024年度）の増配を実現
2025年度配当予想：78円（1株当たり年間配当予想：対前年度18円増配）

第5期中計期間中の1株当たり配当額



機動的な自己株式の取得

◆ 2024年 4月～2025年 4月に、2回にわたる自己株式取得を実施

● 2024年 4月 ～ 2025年 1月

- 目 的 : 株主還元の更なる充実と資本効率の向上
- 取得総額 : 2,000億円
- 取得株数 : 3,871万株

● 2025年 3月 ～ 2025年 4月

- 目 的 : 将来の収益性が株価に織り込まれていない状況への対応
- 取得総額 : 500億円
- 取得株数 : 1,397万株

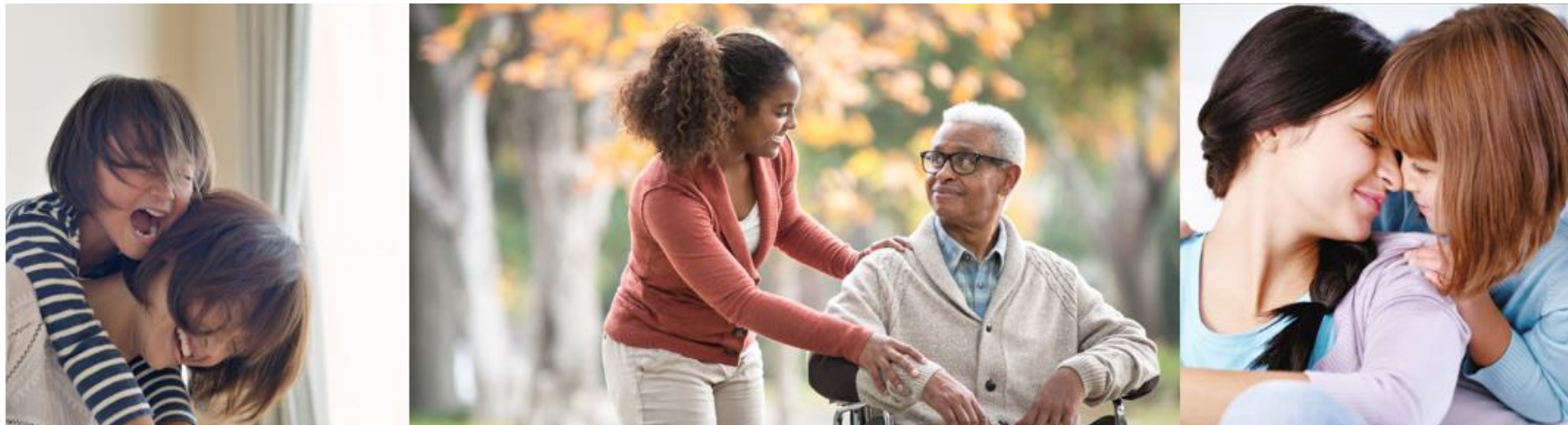
◆ 2025年 4月、自己株式の取得枠を設定

● 2025年 5月 ～ 2026年 3月

- 目 的 : 株価水準等を総合的に勘案した機動的な対応
- 取得総額 : 2,000億円（上限）
- 取得株数 : 8,000万株（上限）



**第一三共グループは世界中の人々の
健康で豊かな生活に貢献してまいります**



Appendix



5DXd ADCs以外の製品の研究開発状況

名称		研究開発状況
DS-3939	DXd ADC	<ul style="list-style-type: none">・ 当社単独開発中の<u>6番目</u>のDXd ADC・ 2024年12月：抗TA-MUC 1 抗体の知的財産権を買取・ 2025年10月：国際学会で固形がんのフェーズ1/2試験の初回データを発表
DS 3790	DXd ADC	<ul style="list-style-type: none">・ 血液がんを対象にした<u>7番目</u>のDXd ADC・ 2025年下半期：ヒトでの臨床試験開始を予定
DS 3610	STING アゴニスト ADC	<ul style="list-style-type: none">・ <u>がん免疫</u>領域において、注目されている分子・ 動物実験での<u>免疫細胞の活性化</u>を確認・ 2025年11月：ヒトでの臨床試験開始

本資料に関するお問い合わせ先

第一三共株式会社
コーポレートコミュニケーション部

TEL: 03-6225-1125 (株式市場関係者の皆様)

03-6225-1126 (報道関係者の皆様)

Email: DaiichiSankyoIR_jp@daiichisankyo.com